

【実践報告】

教育実習V・VI（中・高）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 黒木晶子

グローバルコミュニケーション学科 教授 笹原豊造

1 はじめに

教育実習V・VIは中学校・高等学校教員としての適性を確認し、その資質を伸長するために行われるものである。大学で学んだ理論と教育現場での実践がどのように関連するかを実習で学ぶ。実習校で指導担当教諭の指導のもと、授業参観、教材研究、授業実施、学級指導などを行う。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～5月	<ul style="list-style-type: none">・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。・実習校への事前訪問により、指導担当教諭等の指導担当者に、担当となる学級の生徒の実態や、指導計画、担当授業の内容を確認する。・教材研究、模擬授業を行う。担当教員による指導、実習生相互の検討作業を通して、よりよい教材・授業になるよう工夫を重ねる。
本実習 15日間 (学外)	5月～6月	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導担当教諭等からのオリエンテーション、②授業参観、③教材研究、④授業担当、⑤生徒指導、⑥その他の学校・学級運営に関わる諸業務が挙げられる。・実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、中学校・高等学校教員の役割・業務等について理解を深める。
事後学修 (学内)	7月 報告会は 7/20に実施	<ul style="list-style-type: none">・各自の実習を振り返り、報告書をまとめる。・各自の実習内容について報告会で報告する。報告会では、教科指導、生徒指導、校務等を通して学んだことを発表する。

3 活動の概要

○教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

・授業準備の大切さを改めて感じた。あらかじめ模擬授業を行ったり、グラフや挿絵といった、授業の内容に合った具体物を作ったりするなど、念入りの授業準備を行うことで「分かる授業」に近づき、生徒の授業に対する意欲をひきだしていくように思う。しかし、私が実習で体験したこと以上に教師という仕事は忙しく大変なものである。1つの授業にかけられる準備時間も限られる。そういった忙しい中でも「分かる授業」を目指すために、教師となったときは早め早めの取

り組みが重要だと感じた。また、日頃準備したものや指導案などの記録を大事に保存し、長期的に活用していけたらと思う。今回の学びを実際に教育現場で実践していきたい。

- ・先生方は、教科を持っていたり担任をしていたりと、それぞれの学級についての仕事もある中、時間を見つけて、校務のうち担当になっているものを中心に仕事に取り組み込まれていた。よりよい学校にしよう、生徒たちによりよい教育をしようという思いが感じられた。
- ・校務を担当させていただくことはなかったが、教師の多忙さを知ることができた。教科指導や部活動指導、学級運営などの他にも、実習期間には大運動会が計画されていたので、そのような行事の準備にも追われることを知った。毎日朝早くから夜遅くまで学校に残って仕事をしていらっしゃる先生方が多かったが、忙しい時こそ、学年や学校全体で助け合い、協力し合うことが大切であると学んだ。
- ・1人で何もかもこなしていくのは難しいと思った。常に他の教師と連携や協力をし、教師同士でカバーし合ったり、相談し合ったりすることが大切であると思った。そのためには、コミュニケーション力も非常に必要になると思う。
- ・中学校実習を通して学んだことは、教師と生徒との信頼関係が大切だということである。信頼関係があるからこそ、生徒は意欲的に授業に取り組んだり、安心して学校生活を送ったりすることができる。普段から生徒をよく観察し、声かけを行い、教師から歩み寄ることで生徒も少しずつ心を開いてくれるのだと感じた。生徒にとって学校が楽しい、安心できると思えるような学級経営や授業づくりをしたいと感じ、改めて教師という仕事の素晴らしさを実感でき、教員になりたいという思いが一層強まった。今回の実習で学んだことを今後に活かしていきたい。

4 成果と課題

昨年度と同様、実習の感想として、教師の仕事の内容が多岐にわたり、その多忙さに驚いたことを挙げる学生が多く見られた。学内での事前学修ではなかなか実感することが難しい側面を、現場での実習において実習生自ら体感し、その中で今後の学修課題を見出すことにつなげていることがうかがえる。改めて実習を通して学生たちが獲得する学びの大きさが実感される。

昨年度、課題として残った、実習報告会への4年生以外の学生の参加については、今年度は関係授業やユニバーサルパスポートを通して早めに会の開催に関する通知を行ったことにより、特に3年生の参加人数の大幅な増加が見られた。また、実習報告後の質疑応答タイムでは、3年生から積極的に質問が出され、それに対して4年生から自身の体験をふまえた応答が熱心に行われた。改めて、学生相互の学び合いの場としての実習報告会の意義を認識することができた会であった。

今後も、実習での学びをより深めていくことができるよう、実習報告会の実施形態・方法の改善、事前学修の一層の充実を図りたい。